

平成30年度 石神・村松コミュニティセンター内装改修工事

平成30年7月から平成31年3月までの期間、石神・村松コミュニティセンターの内装改修工事を予定しています。工事期間中は、一部の部屋およびスペースの利用を休止します。詳しい工事期間と工事箇所(部屋等)については、村公式ホームページやコミュニティセンターへの掲示などにより随時お知らせします。

使用者の皆さんにはご不便をお掛けしますが、ご理解とご協力をお願いします。

問い合わせ▼地域づくり推進課地域づくり推進担当(☎282-1711 内線1463)



【使用予約について】

通常、コミュニティセンターの使用予約については、使用予定日の2か月前から受け付けていますが、工事の詳細が決定するまで、石神・村松コミュニティセンターについて、7月以降(5月1日から受け付け開始分)の使用予約受け付けを一時停止させていただきます。

【基幹避難所について】

石神・村松コミュニティセンターは、災害時の基幹避難所に指定していますが、本工事期間中に災害が発生した場合は、石神地区は石神小学校を、また、村松地区は照沼小学校を避難所にする予定です。

太古の沼の記録

ふるさと歴史 自然を探して

東海村の地層の歴史は、約1100万年前に始まります。化石や地層の研究に基づいた現在までの各地層の堆積環境を示すと、下位より、深海→深海→浅海→陸地(河川・沼・湿地)→陸地(沼・湿地)→陸地となります。一般に、海底に堆積してできた「海成層」の認定は、化石や地層の解析から容易です。対して、陸地に堆積してできた「陸成層」は地層の判定が困難で、特に沼底に堆積した地層の場合、大型化石の存在がなければ珪藻の解析や化学的解析が不可欠となります。そうした中で、村内において沼底で堆積したと判断される貴重な地層が発見されました。その露頭(崖)は中丸崎にある、今から12〜13万年前の新生代第四紀更新世に堆積した地層です。地層年代で話題の「チバニアン」の上部に對比されるとも考えられます。

露頭では、下位から礫層、粘土層、細粒砂層、粘土層、完新世層が見られました。沼底で堆積したと判断される地層は粘土層です。その特徴や証



沼の記録を残す露頭(赤線部)

掘として、緻密で葉理(地層に見られるしま模様)の一種が無く、塊状で砂の粒子を含まず、色は青暗灰色(風化すると明黄灰色)を示し、また沼地に生育するヒシの実は化石を含み、元素分析では海成層に特有なイオウ元素が認められない点などが挙げられます。粘土層が堆積した時代の東海村では、現在の台地の上を太古の久慈川が氾濫と蛇行を繰り返しながら流れ、水路(流路)も複数形成されたと推測されます。粘土層の下位に見られる礫層は、太古の久慈川の川原の礫です。水路の一つで流れが変わり、水路が閉鎖されて放棄水路となり、その後川原の礫層を基盤とした沼が誕生したと考えられます。粘土層は、水の動きの無い静かな沼に降った火山灰が、沼底に堆積したものです。その沼に水生植物のヒシが繁茂し、成熟したヒシの実が沼底に落下して埋もれ、化石となりました。粘土層の上位に発達する細粒砂層は、突発的な現象で海域から沼に運ばれ堆積したものと推測されます。なお、ここに掲げた露頭を現在観察することはできません。

東海村自然調査会調査員

菊池 芳文